

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	みらいビジョン大府			
○保護者評価実施期間	2026 年 2 月 1 日 ～ 2026 年 2 月 28 日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	38	(回答者数)	
○従業者評価実施期間	2026 年 2 月 15 日 ～ 2026 年 2 月 28 日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2026 年 4 月 20 日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ビジョントレーニングを主にした個別での活動を行うことで読み書きや姿勢・集中力の改善が期待されること	初回アセスメントに基づく個別目標の設定で、眼球運動・視空間認知・視覚記憶などの得意、苦手を分析して対応し、また課題の段階づけをし、難しすぎず簡単すぎない“ちょうどいい負荷”を意識して課題の設定をしている	楽しく取り組めるよう、タブレットアプリなどを使って「遊び感覚」で視覚機能を育成する取組を行なっている
2	療育経験豊富な指導員や保育士がいること	子どもの年齢や発達特性に応じて、一人ひとりに最適な支援の取組の中で、ビジョントレーニングだけではなく、SSTや自立課題などを行なっている	スタッフ間での学び合いや連携を大切にし、支援会議はもちろんのこと、毎日のフィードバックを実施し、チーム一体で支援の質の向上を図り、定期的な支援の質の自己点検や改善につなげている
3	ICTを取り入れた支援	マウス操作やタイピングにより、手の協応や集中力を養う。またマイクラフトを使った支援では、空間認知や論理的思考のトレーニングもゲーム感覚で取り組みやすい	マイクラフトでは、グループワークの協カプレイを通じて、役割分担や相談、交渉などの社会性を学ぶ機会もある

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ビジョントレーニングは継続による変化が前提のため、短期間では効果を実感しにくいこと	視覚機能の向上が全体的な発達の改善ではないため、他の要因(認知・身体・情緒)の影響で効果が相殺されることもある	書字や読みの様子などを定期的に記録し、比較できる形にしたり、課題の目的や目標を保護者と共有することが必要である。またビジョントレーニング講演会を定期的に行い、家庭でも出来るトレーニングなども周知していく必要がある
2	スタッフの継続的な育成が難しいこと	日々の業務で手一杯になり、育成の時間が取りづらかったり、外部の専門講座は有料が多い。また事業所側が費用補助や勤務調整をしないとスタッフが自主的に取りづらい	研修制度の整備(仕組みづくり)や育成に必要な時間の確保、外部研修・資格取得の支援などが必要である
3	ビジョントレーニングを主に支援を提供しているが、総合的な療育支援が必要な子には、不足を感じられること	ビジョントレーニングだけではなく、他の支援(PC・食育・SST)を提供していることの周知が不足している	保護者は「学習」「社会性」「日常生活スキル」など多角的な支援を期待しているため、契約時や面談時には丁寧な説明が必要である